

JA共済 地域貢献活動

PROJECT STORY



VOL. 04

JA共済連 徳島

[学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室]

令和5年11月



親子で楽しく学べるイベントを通じて 地域の防災力向上につなげたい

家族で防災について話し合うきっかけ作りの場を提供

南海トラフ巨大地震の発生リスクの高まりを受けて

JA共済連 徳島は地域住民の防災意識を高める取組みに力を入れています。

令和5年度には「地域・農業活性化積立金」を活用した地域貢献活動として

親子で防災について学べるイベント「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」を開催しました。

防災士の講話や災害に強いメディアとして知られるラジオの組み立て工作に

防災食の試食体験を組み合わせ、楽しみながら防災への関心を高めるプログラムを実施。

家族で防災について話し合い、家庭での備えについて考える機会を提供しています。

過去の県外査定支援の経験から 地域の被災経験の少なさに危機感

四国東部に位置する徳島県は、播磨灘、紀伊水道、太平洋の3つの海域に面する自然豊かな地域です。温暖な気候を活かし、全国上位の収穫量を誇るすだちやれんこん、にんじんを始め、幅広い農産物を生産しています。

JA共済連 徳島では、以前から地域住民の防災意識を高める取組みに力を入れてきました。背景にあるのは、近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震です。想定震源域に含まれる徳島県では、最大で震度7の揺れと20m超の津波被害が想定されています。

県本部で地域貢献活動を担う管理部課長の住永宏司さんは、「最近ではメディアでも南海トラフ巨大地震について報じられる機会が増え、県民の皆様もリスクは認識されていると思います」と話した上で、現状の課題をこう指摘します。

「ただ徳島県では近年大きな地震災害が発生

していないため、ほとんどの方は地震による被害を実際に体験していません。ですから発生時にご自身やご家族の身に何が起るのか、どう行動すべきかといった、具体的なイメージが描けている方はまだまだ少ないように思います」

そう語る住永課長は、仕事を通じていくつもの被災地を自身の目で見てきました。

「大きな災害が発生すると、JA共済連の職員は全国各地から被災地へ応援に入ります。私も2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震が発生した際は現地へ応援に駆けつけ、想像を超える被害の大きさに衝撃を受けました。その経験から、私たちが被災地で見聞きしたことを県本部に持ち帰り、地域の皆さんに伝えていきたいという意識が一層強くなりました」

JA共済連 徳島
管理部 管理課長
住永宏司さん



「家族」の防災意識が高まれば 「地域」全体の防災力も向上する

南海トラフ巨大地震への備えや対策の必要性が高まる中、徳島県本部ではこれまでも「地域・農業活性化積立金」を活用し、様々な防災関連の取組みを行ってきました。

平成30年度には、親子で楽しく体験しながら防災意識を高めるイベントとして「JA共済GW防災フェスタ」を開催。令和3年度には、災害時に使用可能な非常用簡易トイレを地域住民に向けて寄贈しました。

管理部部長の米原利英さんは「『地域・農業活性化積立金』の創設によって、地域貢献活動の財源を確保しやすくなり、防災についてもより幅広い取組みが可能になりました」と話します。

こうした活動の積み重ねにより、県本部が防災意識向上のための活動に力を入れていることが地域に周知され、防災関連の取組みへの協賛や共催によって地元企業とつながる機会も増えています。令和5年度の施策として、「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」の実施を決めたのも、地元放送局のエフエム徳島との関係性があったからでした。

これまでもエフエム徳島とは、同局が制作する「防災ハンドブック」に県本部が協力するなどのつながりがありました。県本部からも「防災関連で協力できることは何かないか」と継続的に声がけをする中、JA共済の使命である「豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくり」と趣旨が一致する企画として提案されたのが、「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」です。

これは県内の小学生と保護者を対象に、楽しみながら防災やラジオについて学ぶイベントです。ラジオ制作キットを用いた工作教室と、防災士の講話を組み合わせ、参加者の防災意識を高めることを目的としています。

ラジオ局が防災イベントを開催する意義について、エフエム徳島営業部副部長 兼 東京支社長の平野芳朗さんはこのように語ります。

「東日本大震災の発生直後、テレビやインターネットが使えない中、被災者の情報源となったのはラジオでした。また災害時はSNSなどを通じて噂やデマが広がりやすいのですが、ラジオなら正しい情報が得られます。最近ではラジオに触れる機会がない子どもも多いので、まずはラジオに親しんでもらい、いざという時の情報源として活用して頂きたい。それが県民の命を守ることにつながるとの思いから、このイベントを企画しました」

県本部が実施を決めた理由について、「防災について親子で楽しく学べる内容に魅力を感じました」と住永課長は話します。

「親子で防災について話し合う機会は少ないと思いますので、イベントへの参加がご家庭



説明を聞きながら夢中になってラジオを組み立てる子どもたち

で防災や減災に取り組むきっかけになればと考えました。家族は社会の最小単位のコミュニティであり、それぞれのご家庭で防災意識が高まれば、地域全体の防災力向上につながるはずですよ」



「ラジオを身近に感じてもらい、災害時の大切な情報源として活用してほしい」と話す、エフエム徳島の平野さん

「防災食の試食コーナー」を企画 「食」の備えの大切さも伝える

プログラムの実施内容について調整を進める中、県本部が企画したのが「防災食の試食コーナーの設置」です。管理部の近藤真由美さんは「防災食を食べたことがないお子さんもいらっしゃると思うので、この機会に試食して、ご家庭の備蓄に取り入れて頂きたいと考えました」と提案の理由を説明します。

防災食の提供は、オフィス用品やOA機器などの納入でつながりのあった地元企業の株式会社三井に依頼。同社は5年ほど前から防災商品の販売にも力を入れています。株式会社三井の増田裕二さんは「弊社が防災商品を扱い始めたのは、社長の『地域に貢献したい』との思



防災食の試食コーナーを担当した、株式会社三井の木下さん(左)と増田さん(右)

いから。JA共済連も私たちと同様、地域貢献に力を入れていると知っていましたので、今回も喜んでご協力することにしました」とイベントの趣旨に共感を寄せます。

同社の木下武夫さんは、「防災食といえば、以前はアルファ米や乾パンのイメージが強かったのですが、現在は無調理でおいしく食べられる商品がたくさんあることを知って頂きたい」と考え、フリーズドライのピラフ、レトルトの煮込みハンバーグ、ライスクッキーを試食用に用意しました。

こうしてJA共済連、株式会社エフエム徳島、株式会社三井と、地域の防災活動に使命感を抱く三者の連携で、イベントの準備は着々と進みました。



小学生とご家族の参加で 次世代層とのつながりも強化

令和5年8月26日。今日は「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」の開催日です。会場の徳島県JA会館に、50組100名の親子が続々と集まり始めました。

イベントの開始を待つ間、会場内に並ぶ防災食に興味を惹かれた親子が次々と試食コーナーに立ち寄ります。ピラフやハンバーグを口にした参加者たちは「おいしいね」「これが防災食？」と驚いた様子。「温めなくても食べられるの?」「賞味期限は?」と積極的に質問するご家族も多く、「そのまま大丈夫です」「5年間保存できますよ」との回答に感心した表情を見せていました。

開始時刻を迎え、いよいよイベントがスタート。エフエム徳島のパーソナリティで防災士の資格を持つ蔭山洋子さんによる防災講座では、南海トラフ巨大地震発生時に想定される揺れや津波の大きさ、過去に起こった災害による被災状況などを紹介したほか、〇×式の防災クイズ



防災士の資格を持つエフエム徳島のパーソナリティ蔭山さんによる防災クイズ

ズも取り入れ、子どもたちが楽しく学ぶ工夫がされています。

ラジオを組み立てる工作の時間になると、ものづくりを楽しむ親子の声で会場内は一層にぎやかに。「できた!」「ちゃんと音が聞こえるよ」と、子どもたちは自分で作ったラジオの出来栄に満足げです。

ある女性の保護者は「防災クイズは意外な答えが多く、私も勉強になりました」と感想を語りました。また小学3年の男の子は「阪神大震災のことを聞いて、大きな地震が起るとこんなふうになるんだとわかりました」と話すなど、大人も子どもも良い学びの機会になったことがうかがえました。

防災意識が高まったという感想も多く、保護者からは「いざという時の避難のことまで考えていなかったので、家族で話し合っって災害時の集合場所を決めようと思います」「防災食も今はこんなに種類があるんだとびっくり。我が家もしっかり備えなくては」といった声が聞かれました。

今回のイベントは、JA共済連と地域住民との接点づくりの役割も果たしています。以前もJA共済のイベントに親子で参加したことがあるという保護者は、「こうして地域住民が参加できるイベントをやってもらえると、私たちもJA共済を身近に感じます」と話してくれました。

イベントを見守った県本部の住永課長は「大変盛況で、お子さんたちの楽しそうな顔が印象的でした。保護者も30代から40代の次世代層が多く、防災意識の向上に加え、JA共済に親近感を持って頂く良い機会になりました」と手応えを感じていました。

地元メディアの発信力を借り JA共済の活動を地域住民に周知

ラジオ局との連携は、地域住民にJA共済連の地域貢献活動を広く周知する効果も期待できます。今回のイベントは、事前にエフエム徳島の放送内で「JA共済presents」と冠をつけた募集告知のスポットを100本以上打ち、生放送の番組内でも告知。イベント当日の様子は、同じ番組内で後日放送され、日本農業新聞にも記事が掲載されました。住永課長は「私たちの取り組みを広く発信するために、地元密着型メディアの力をお借りするのは有効な手段」と話します。

「徳島で県域放送を行っているエフエム徳島は、全国放送と比べても地元の聴取率は高めです。地元テレビ局とも平成30年度の防災イベントで協業した実績があり、その後もメディアの発信力を活かした広報企画を継続的にご提案頂いています。これら地元放送局と関係性を構築し、映像や音声を通じて情報発信することで、JA共済連が取り組む地域貢献活動の内容が県民の皆様に具体的に伝わる効果が高いと実感しています」

エフエム徳島の平野さんは、JA共済連の地域貢献活動について「各地の共済連がそれぞれの地域の課題に向き合い、知恵を絞って独自の活動に取り組んでいるのは本当に素晴らしいと感じます」と話します。パーソナリティの蔭山さんは「SNSが発達した現在も、いざという時に頼りになるのは『地域の力』。ともに地域に根ざす組織として、今後もJA共済連と一緒に活動する機会があれば幸いです」と期待を寄せました。



今後もJA共済と地元企業の連携を続けていきたいと話す、平野さん(左)、住永さん(中央)、増田さん(右)

県本部の米原部長は「JA共済連は『3Q訪問活動』などを通じて利用者や組合員の声を直接お聞きし、地域の課題を見出すヒントを頂けるのが強みです。地域の人たちが何かお困りの時、気軽に相談できる“地域のなんでも屋”のような存在でありたい。それが私たちの思いです」と語ります。

これからもJA共済連は、地域の課題に目を向け、地域の人たちに「安心」と「満足」を提供すべく取り組んでいきます。



取材協力者のご紹介



JA共済連 徳島
管理部 管理課長
住永宏司さん

【経歴】

- 平成14年 入会
自動車損害調査部
徳島SC
- 平成19年 業務部 生命建物査定課
(建物査定担当)
- 平成23年 普及部門 地区担当
- 平成28年 自動車損害調査部
- 平成30年 管理部
- 令和4年 普及部門 地区担当
- 令和5年 管理部

【この活動を通じて感じたこと】

地域貢献活動を通じ、組合員や利用者だけでなく、地域の皆様と広く触れ合うなかで、JA共済の事業理念である「相互扶助」の重要性を改めて感じています。これからも地域の皆様にとって身近な存在であり続けるよう努めます。

【地元の好きなおとこ】

徳島は海あり、山あり、川ありと自然豊かで、地元で採れる農産物や海産物もおいしいものがたくさんあります。徳島の名産といえば「すだち」が有名ですが、地元の人たちは刺身につけたり、味噌汁に入れたり、色々な食べ方を楽しんでいます。

【休日の過ごし方】

休日は息子のサッカーの練習や試合を見に行ったり、地元チームの徳島ヴォルティスの試合を観戦することが多いです。選手たちの一生懸命なプレーを応援するのはとても楽しく、良い気分転換になります。



「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」の概要

活動の背景

- 南海トラフ巨大地震の発生リスクが高まり、徳島でも大きな被害が想定されている。
- 近年は徳島で大きな地震災害がなく、防災をいかに“自分ごと”にするかが課題に。



活動の内容

- これまでも防災関連事業などでつながりのあったエフエム徳島とJA共済の事業理念に一致する企画として、親子で楽しみながら防災を学べる「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」を開催。
- 対象者は小学生とその保護者。エフエム徳島の放送内で「JA共済presents」と冠をつけたスポット告知や生番組での告知を流し、50組100名の親子を募集。
- イベントでは防災士による講話とラジオ制作キットを用いた工作教室に加え、県本部の発案による防災食の試食体験を実施。防災商品を扱う地元企業と協力し、防災食の試食体験コーナーの設置や最新の防災商品の展示などを用意。



活動の成果

- ものづくりや防災クイズなど楽しみながら学べる内容を工夫したことで「親子で勉強になった」「家族で防災を考えるきっかけになった」などの声が聞かれた。
- ラジオの告知を通じて広く参加を呼びかけた結果、小学生とそのご家族が多数参加し、次世代層とのつながりを強化する場にもなった。



活動のポイント

①

災害への備えの必要性が高まる中
地域の被災経験の少なさに着目

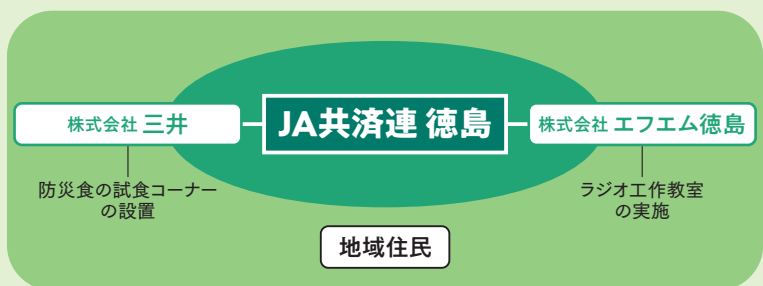
②

防災活動の積み重ねにより
地元企業と協力し合う関係を構築

③

想いを共にする
地域の仲間との「共創力」

「学ぼう防災 夏休み親子ラジオ工作教室」の展開



これまでの防災活動を通じて関係を構築した地元企業と協力し、親子で参加できる、地域住民の防災意識向上のためのイベントを実施。家族で防災について学び、話し合う機会を提供することで、防災を自分ごととして捉えるきっかけをつくりました。

「JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY」は、今後もシリーズとして発行を予定しています。地域の様々な取組みを動画で紹介している「一緒に地域を咲かせよう」もぜひご覧ください。

県域独自の地域貢献活動を動画で紹介
「一緒に地域を咲かせよう」

JA共済 咲かせよう 検索

▶ https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture_case/



編集後記

防災活動を積み重ねる中で構築した地元ラジオ局との協力体制のもと、地域の課題へ共に取り組み、充実したイベントの企画、ラジオを通じた効果的な発信がなされている素晴らしい取組みでした。夏の思い出の1ページとして楽しみながら、防災について考える親子の様子が伝わりました。ぜひ本記事へのご感想や取材のご要望等、お気軽にご連絡ください。(小池・岡田)

発行：JA共済連 全国本部 農業・地域活動支援部